勝

三年

画数 12

筆順 月 月 月 肝 朕 勝

オン ショウ

クン か＝つ・まさ＝る

成り立ち

「二人で〝分け合う〟こと」をあらわした〝券（券年698）〟と、〝力〟と〝舟〟の形をあらわし、舟のいみの〝月〟とを組み合わせて作った字です。「一つの舟を二人で、力づくでとり合う」ことをあらわした字で、「力のつよいものが〝かつ〟こと」をあらわしたものです。

また、「力が〝まさる〟こと」といういみにもつかわれます。

〔本当は〝朕〟と〝力〟との会意字である。朕は、秦の始皇帝により天子の自称に用いる字となったが、本来は、〝脒〟で、「舟板の合わせ目」を表した字である。これでは子供には理解できないので、〝券〟や〝巻〟に合わせて「二つに分かつ」意味とした。〕

使い方

▽一回戦や二回戦までは勝てても、連勝するだけの自信はとてもありませんでしたから、優勝してもまだゆめを見ているような気もちです。

▽旅行には、景勝というだけでなくて、むかしのゆうめいなできごとのあった土地でもある、というところに行きたいと思います。

熟語例

▽勝敗（敗（年598）は〝負ける〟いみ。〝勝負〟と同じいみのことばですが、「勝ち負け」、「勝つか負けるか」といういみにつかい、「勝負をする」というようなつかい方はしません。）

▽連勝（連続して勝つこと。なん回も続けて勝つことです。例連戦連勝）

▽優勝（「優れたものが勝つ」といういみと、「きょうぎで一番になること」のいみにつかわれます。例優勝劣敗の原理、優勝旗、優勝盃）

▽勝因（勝った原因。なぜ勝てたかというわけ）

▽景勝（景色が勝って美しい土地。景色が美しいことで有名な所。〝名所〟とも〝名勝〟ともいいます。）

乗

三年

画数 9

筆順 ノ 二 三 乗 乗 乗 乗 乗 乗

オン ジョウ

クン の＝る＝せる

成り立ち

人が三人で、木の上に〝のっている〟形をあらわした字で、「木の上に〝のる〟」ことから、「馬に〝のる〟」ことや「車に〝のる〟」ことをあらわしたものです。例乗馬、乗車、乗船。

「ついでに車に乗せてもらうこと」を〝便乗〟といいますが、車に乗せてもらうことにかぎらず、人のすることをうまくりようして自分もうまくすることを〝便乗する〟、または〝乗ずる〟といいます。

また、かけ算のことを〝乗法〟といいますが、それはある数の上にそれと同じ数を〝乗せたもの〟といういみでいったものです。たとえば、六が三つ乗っていればぜんぶで十八です。それで「6×3＝18」という計算のことを〝乗法〟というのです。

使い方

▽ぼくはバスの降車口から乗車しようとしてとがめられ、はずかしいおもいをしました。

▽花子さんのお父さんの車に便乗させてもらって家にかえりました。

熟語例

▽乗車（車に乗ること。）

▽乗船（船に乗ること。）

▽乗降（乗ったり降りたりすること。乗り降り）

▽乗客（乗りものに乗っているお客）

▽乗員（職員として乗りものに乗っている人。〝乗務員〟ともいいます。）

▽便乗（便は〝ついで〟といういみ。行く方向が同じばあい、ついでに車に乗せてもらうこと。また、人がすることに同調して自分もうまいことをするのをいいます。例便乗値上げ。また、その時のなりゆきにうまく乗ることをいいます。例時勢に便乗する。）

▽同乗（同じ乗りものにいっしょに乗ること。便乗も「同じ乗りものにいっしょに乗ります」が、〝同乗〟とはいみがちがうことに気をつけること。）